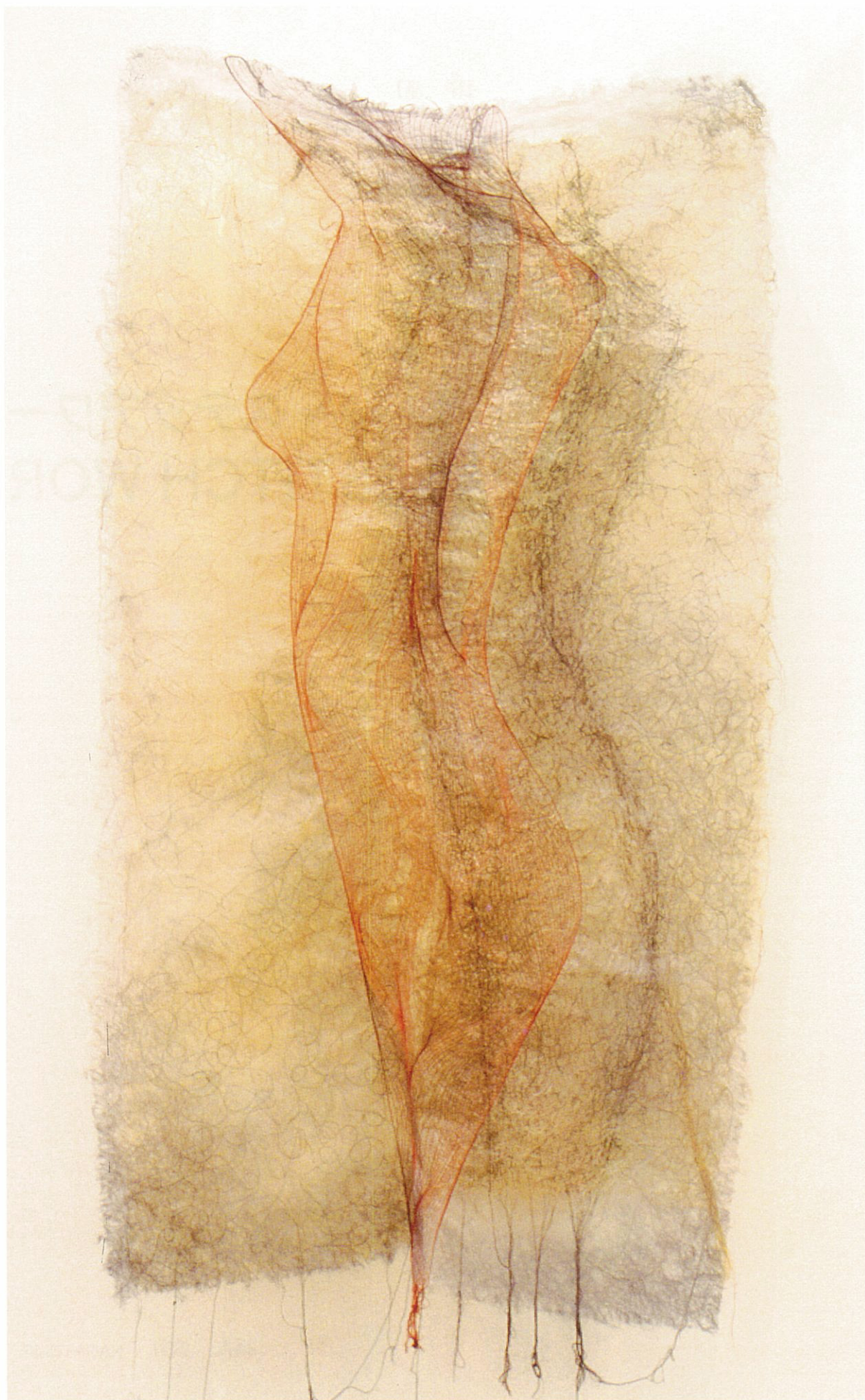


【作 品】

ステッチワーク
STITCH WORK

長友 宏江 NAGATOMO, Hiroe



影身 KAGEMI 190×110 cm 不織布、糸 (non woven fabrics, thread)

2001年「Art of the STITCH2001展」Mall Galleries in London , The Williamson Art Gallery in London
Anchor Award (大賞) 受賞



KAGEMI DETAIL



かげぼうし KAGEBOUSHI (作品正面) 300×190 cm 4枚 不織布、糸 (non woven fabrics, thread)
2001年 川島テキスタイルスクール修了展出品 京都市美術館別館



かげぼうし KAGEBOUSI (作品側面)



かげぼうし KAGEBOUSI (作品背面)



①



③

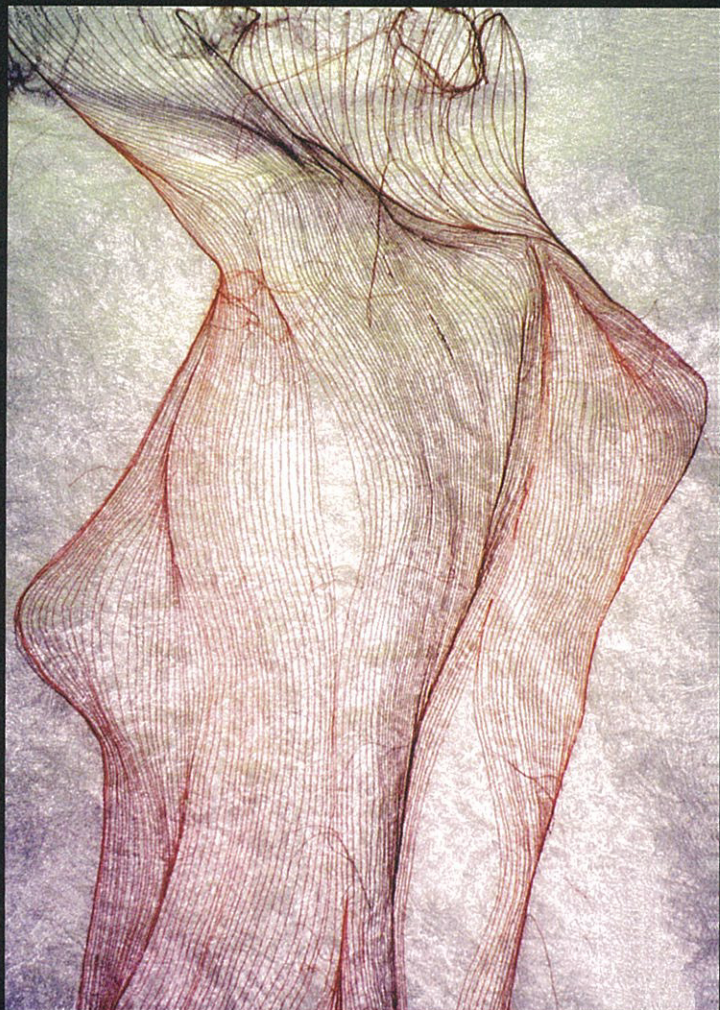


②

KAGEBOUSI DETAIL ①~④



④



世界各地にはさまざまなステッチがあり、その代表的なものに刺し子と呼ばれるものがある。刺し子は装飾のため、補強のため、あるいは願いを込め、布一面に糸を刺したものである。産着、童着、仕事着、晴れ着、生活の諸道具などに糸で線を刺していき、文字や模様を表現する。糸で線を刺すという単調な作業を繰り返すことで存在感のあるものになっていく。

このような刺し子に影響を受け、糸によってできる線（line）に心が惹き付けられるようになった。直線、曲線、線の集合、間隔によって陰影を宿し、想像もしない表情が現れる。糸によって線を描く作品を創り始めるきっかけとなった。



作品「影身」「かげぼうし」は鉛筆で絵を描くように不織布にミシンでステッチをかけた。ステッチの線の重なり、間隔の差による見え方の違いを利用し、人物を表現している。作品「影身」は影のように寄り添って離れない人、ものをイメージし、ステッチした布を2枚重ね合わせてある。表にくる布⑤はきれいな人体の形がでるように線をステッチし、2枚目の後ろにくる布⑥は、糸が絡まり合っている様を表現した。そしてステッチを施した2枚の布⑤、⑥を重ね合わせ、ひとつの作品として完成させた。作品「かげぼうし」は人々の影が重なりあって見えるように、ステッチを施した布を4枚重ねた。全部で17人の影があるが、ステッチの間隔、線の動きは一人一人違う。



⑥のDETAIL

